スワン工舎卒業生訪問 23 がん研有明病院さま

公益財団法人がん研究会有明病院／2016年1月、全700床の病院棟に、地上4階・地下1階の新棟も完成し、より充実したわが国初のがん専門病院です。ここで働く障がいのある方は22名、雇用率は2.6%（2016年11月現在）となっています。

「大好きな仲間と一緒に働けるこの職場に入れて良かった」と笑顔の上田さん（左から4人目）

看護助手の仕事をサポート 時には患者さんから感謝の手紙も

上田さんは、病棟で働く看護助手をサポートするチームの一員です。時には患者さんから感謝の手紙が届くこともあり、仕事を頑張るよいモチベーションになっています。

■ヤマト自立センター スワン工舎羽田　就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

「自分もがん研有明病院の一員」という意識をチーム全員が持ってほしい

「当院は手術・入院・退院のサイクルが早い急性期の病院です。700床もありますから毎日のベッドメイクだけでも大変な量で、看護助手はいつも業務に追われています。上田さんは、そんな看護助手の業務をお手伝いするワークサポートチームの一員です」と人事部の西田尚美さん。障がいのある方たちで結成されたワークサポートチームは、病棟の清掃、ベッドの清掃やメイク、点滴で使うテープや患者さんの身体を拭くタオルの準備、さらに入院時に必要な書類の印刷、製本など、さまざまな仕事を担当しています。

「院内感染防止などに配慮し、衛生管理や身だしなみは毎日厳しくチェックします。チーム全員が、自分もがん研有明病院の一員だと自覚し、業務に励んでほしいですね」。そんな意識が芽生えたからか、最近の上田さんの成長は目覚ましいと西田さんは評価しています。

上田さんも業務をはじめて半年が経ち「これからは先輩に頼らず責任をもって仕事をする」と発言。以来、自分の仕事を終えると「仲間を手伝いましょうか？次の仕事をはじめましょうか？」と自発的に考え行動するようになりました。「ルーティンを理解し、やるべきことを先読みできていますね。新しい実習生の先輩として手本になろうとしているその姿勢を頼もしく感じています」と西田さん。

チームに対する院内の評価は高く、担当する仕事の種類も増えました。中には納品された薬剤を所定の棚に並べるなど慎重な仕事もあります。西田さんは、各人の個性や指示出しのコツなどをまとめたシートを作成し、各部署との連携を図っています。「配属先と密に情報交換を行い、彼らをサポートするのが私の役目です。チームの活躍の場を広げ、障がいのある方が『医療』の現場でも力となって、チーム医療を支える一員として頑張ってほしいです。」

次第にチームの人数も増えて控室も大きくなりました。上田さんは「控室でチームの仲間と話すのが楽しみの一つ。みんなやさしくていい職場です」と笑顔で話しています。

ベッドメイクのノウハウもマスター。随分と手際もよくなりました

外来で使用する簡易エプロンも取りやすくセットすることで、業務の時間短縮に

上田 遼さん　がん研有明病院（平成28年2月1日入社）

給料をもらうと気楽に電車で外出できるようにICカードをチャージ。「休日には友人に会うためスワン工舎を訪ねたり、横浜などをぶらりと散策したりします」。

「時にはみんなで飲みに行き、職場では話せないグチや要望も気軽に言い合えるようにしています」と西田さん